

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価  
 < C 票 > 第三者評価結果 【理工学研究科】

**教育研究目標 1**

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 修士学生の学会発表数とそのうちの国際学会数を増加させるという目標は具体的かつ適切である。（評価者 A） ・ 専攻ごとに必要な専門性と研究能力を有する人材像が記されているため。また、論文審査基準の周知度合いと学会発表の数値目標も設定されている。（評価者 B） ・ 目標と学生の姿が適切に関係づけられている。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<b>目標の内容</b> （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 理工学研究科の特長を伸長させる、意欲的かつ適切な目標である。（評価者 A） ・ 内容が十分評価できる。（評価者 C）
<b>評価指標</b> （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 修士学生の学会発表数とそのうちの国際学会数という評価指標は適切である。（評価者 A） ・ 妥当である。（評価者 C）
<b>目標達成スケジュール</b> （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 適切なスケジュール設定である。（評価者 A） ・ スケジュールは適切である。（評価者 C）

## 教育研究目標 2

### 1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会発表数、学振研究員への採用数、学内研究奨励金への採択数を増加させるといふ目標は具体的かつ適切である。(評価者A)</li> <li>・ 専攻毎に狙いが定まり、評価指標と評価尺度が設定されている。(評価者B)</li> <li>・ 関係性が高く具体的である。(評価者C)</li> </ul>
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理工学研究科の特長を伸長させる、意欲的かつ適切な目標である。(評価者A)</li> <li>・ 理工学研究科の特長を生かした内容である。(評価者C)</li> </ul>
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会発表数、学振研究員への採用数、学内研究奨励金への採択数という評価指標は適切である。(評価者A)</li> <li>・ 評価尺度が四つに分類されわかりやすい。(評価者C)</li> </ul>
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切なスケジュール設定である。(評価者A)</li> <li>・ スケジュール設定は適切である。(評価者C)</li> </ul>

## 教育研究目標 3

### 1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 外国人留学生・外国人研究者の受け入れ人数、及び大学院生における国際学会における発表参加比率の増加という目標は具体的かつ適切である。(評価者A) ・ 外国人留学生・研究者数の増加と大学院生の国外学会発表・海外留学の増加が目標とされ、数値目標も設定されている。(評価者B) ・ 関係性は具体的でイメージしやすい。(評価者C)
「具体的でない」 0名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<b>目標の内容</b> (設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 理工学研究科の特長を伸長させる、意欲的かつ適切な目標である。(評価者A) ・ 客観的に見て妥当である。(評価者C)
<b>評価指標</b> (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 外国人留学生・外国人研究者の受け入れ人数、及び大学院生における国際学会における発表参加比率という評価指標は適切である。(評価者A) ・ 4つの評価尺度があり数値化している。(評価者C)
<b>目標達成スケジュール</b> (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))	<u>&lt;評価者からのコメント&gt;</u> ・ 適切なスケジュール設定である。(評価者A) ・ スケジュール設定は適切である。(評価者C)

## 教育研究目標 4

### 1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 3名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携により招聘した国内客員教員数、連携を通じて発表された修士論文、博士論文の合計数の増加という目標は具体的かつ適切である。(評価者A)</li> <li>・ 目標設定の背景、課題、現状分析は説得力があり、それが新設学科でも適用可能なように目標が設定されている。(評価者B)</li> <li>・ 関係性は具体的でイメージ出来る。(評価者C)</li> </ul>
「具体的でない」 0名	<p>左記を選択した理由：</p>
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理工学研究科の特長を伸長させる、意欲的かつ適切な目標である。(評価者A)</li> <li>・ 理工学研究科の特長生かした内容である。(評価者C)</li> </ul>
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外連携により招聘した国内客員教員数、連携を通じて発表された修士論文、博士論文の合計数という評価指標は適切である(評価者A)</li> <li>・ 4つの評価尺度と数値化はわかりやすい。(評価者C)</li> </ul>
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p>&lt;評価者からのコメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切なスケジュール設定である。(評価者A)</li> <li>・ スケジュールは適切である。(評価者C)</li> </ul>